

翔陽高等学校 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標
心豊かで、活力にあふれた個性ある生徒を育成し、将来、世界中で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 総合学科だからできる幅の広い教育活動を通して、グローバルな視点と能力を身につけた地域に貢献できる人材を育成する。 (2) 進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 (3) 全ての教育活動を通して規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 (4) 人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にする生徒を育成する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○将来に向けた総合学科の在り方の検討	○企画委員会で、新しい入試制度に対応した教育内容について検討	B	○新しい入試制度に対応したカリキュラム編成にまでは至らなかった。 ○次年度、公務員志望者の進路実現を支援するカリキュラムを編成するなど、総合学科の特徴を生かした改善はできた。
		総合学科のPR	○定期的な情報の発信	○HPの随時更新 ○パンフレットや広報誌の活用	A	○HPを通じて学校行事、各学年・系列等の取組を頻繁に情報発信するなどPRができた。 ○県教委の事業を活用して、大津町・菊陽町・西原村の全世帯に学校紹介のパンフレットを配布するなど、効果的な広報活動ができた。
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○社会人講師による講演会の実施 ○進路体験発表、キャリアガイダンスを実施 ○保護者向け啓発活動を実施	A	○進路指導部主催だけでなく、各系列や年次主導で、進路意識を高める新しい取組がなされた。 ○日頃から保護者との連携を密にとり三者面談や保護者向けの進路講演会なども実施した。
			○将来を見据えた適切な科目選択	○系列ガイダンスを実施	A	○既存の系列ガイダンスに加え、新たに系列集会を実施し、先輩からの進路決定に向けての体験談を聞くなど充実した取組がなされた。

		キャリア教育のシステム化	○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化	○体験型学習の充実 自らの進路選択との関係性を明確にした班別プロジェクトにする	A	○自らの進路とつなげた班別プロジェクトの実施と学んだことを班員と協力して発表することができた。また、文化祭では年次代表が完成度の高い発表をした。
			○インターンシップの活性化	○全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアファイル」の活用	A	○事後アンケートで、「進路について考えるきっかけとなった」と回答した生徒が98.1%、「生徒の実習態度は良い」と回答した事業所が99.0%と回答があったことから分かるように、望ましい職業観・就業観を育成することができた。
			○デュアルシステム、総合的な学習の時間の活性化	○成果発表会の開催 「総合的な学習の時間」で発表会を実施 ○全系列でデュアルシステムを導入	A	○各系列での発表会を実施するなど充実した成果発表を積み重ね、各系列の代表による学校行事「総合的な学習の時間」も実施した。 ○さまざまな産業や事業所の協力いただき、全系列でデュアルシステムを実施できた。
開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○評価資料の収集と課題の明確化	○生徒・保護者へのアンケート実施（11月末まで）、回収率95%以上にする ○教育懇話会委員による学校関係者評価を2回実施	B	○回収率は98.8%となり、生徒・保護者の意見を集約することができた。 ○教育懇話会における学校関係者評価に基づき、学校運営改善の取組を実施した。しかし、家庭学習の充実に向けて更なる取組が必要である。 ※第2回教育懇話会は2月16日	
		○目標や評価結果の公表	○学校HPに掲載	A	○学校評価に関する計画表やアンケート結果を学校HPに掲載し、周知した。	
学力向上	学力の向上	アクティブラーニング（AL）型授業の推進	○AL型授業実践者の増加	○AL型授業の実施状況調査と課題の分析	B	○授業研究チームを核に職員研修でグループワークを企画したり、ICTの活用方法を職員に伝えたりして、誰もがAL型授業に取り組める環境づくりに専念した。取り組みも徐々に広がりが感じられるようになった。
			○公開授業校内参加率90%	○研修立案や授業改善のヒントを配布	B	○公開授業を計4週間実施し、研究授業なども月に1～2回ずつ実施できた。授業研究会よりも事前の計画立案に力を入れるよう促しているが、徹底できているとは言えない状況である。

						○授業改善のヒントは職員に広報活動を行い、呼びかけることはできた。
		学習習慣の確立	○家庭学習 1時間 + α	○学習時間調査や職員への課題調査に基づき、改善策を提案・実行調査は個人面談週間や家庭訪問などで活用	C	○6月の家庭学習調査では全生徒平均1時間を超える家庭学習に生徒たちは取り組むことができたが、10月の調査では目標に満たなかった。 ○一方で、調査で判明したのがスマートフォンの利用時間が多く、私たち学校も家庭も意識の改革が急務であると感じている。
		読書習慣の確立	○朝読書の定着 ○3年次生の読書率の向上 ○図書館の復旧	○読書週間の設定 ○朝読書コンクールの実施 ○朝読書用図書 of 積極的購入 ○書籍内容紹介POPの作成 ○図書館講座の実施 ○倒壊書架の補充	A	○朝読書コンクールを実施し、全体的に整然とした環境で読書に取り組めるようになった。 ○図書委員が作成した書籍内容紹介POPの展示及び来館者投票審査、翔陽祭での熊本ゆかりの作家紹介展示、学校行事や季節に合わせた特設コーナーの設置、読書週間のスタンプラリーや図書館講座(9月、12月)を行い、生徒の図書利用が増えた。 ○授業との連携や全学年での朝読書の導入により、全体の貸し出しが大幅に増え、とくに3年次生の貸し出しは前年度比の2倍近くになった。 ○図書委員会作成のPOPは大津町立おおづ図書館にも展示して頂いた。 ○木製書架1台を補充した。地震からの復旧は閲覧室で9割程度進んだ。書庫についてはこれからである。
進路指導	進路保障	進路目標の達成	○就職目標 進路目標の100%達成 県内就職率80%以上 公務員20人以上 ○進学目標 国公立大学5人以上 公立大学校等(高専含む) 5人以上	○全職員面接2回実施 ○専門系列と2・3年次との進路会議 ○模擬面接の充実 ○作文・小論文指導の充実 ○進学係・公務員担当による面談の充実 ○関係諸機関(役場、県北本部)との連携	A	○学校総体として計画的組織的に全職員による進路面接指導が行えた。 ○不定期の進路指導部主催の会議から「キャリア教育推進会議」に移行され専門系列と年次・進路指導部との会議が立ち上がり充実された。その中で公務員指導対策として科目「工学概論」が設定され大きな一歩となった。

		<ul style="list-style-type: none"> ○故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 ○高い目標へ挑戦及び個性を生かした推薦入試への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への啓発 ○年次主任と進路指導主事との定例会を開催し、目標を共有化 ○個性を活かした大学推薦入試への挑戦 		<ul style="list-style-type: none"> ○国公立大学推薦やAOチャレンジが6人で3名が合格。高専は2名チャレンジで不合格。現3年次について、国公立大学希望者について、個別指導は、体育大会後より取りかかり早めのスタートができた。しかし、目標設定時期が遅かったきらいもある。現2年次については、3月1日卒業式後対策会議を開き、3月、4月、5月の個別指導を充実させる。 ○県内就職については熊本県や本校の地元大津町が強く推進する「地方創生」の重点施策である。熊本県県北本部、菊池地域企業誘致推進プロジェクト協議会（2市2町）、大津町企業連絡協議会（大津町企業誘致課）と連絡相談しながら各種事業に積極的に参画・参加し生徒の人生に有利な地元就職について推進できた。 ○県内の民間企業就職率83.5%で過去最高。公務員も自衛官以外の公務員に31名（過去最高）、自衛官34名が合格。
	早期離職・上級学校退学の防止	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導の充実 ○進学就職内定者指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアサポーターとの面談充実（2回）によるミスマッチの無い受験 ○生徒の目線にたった離職・退学防止のための年次と連携したLHR指導 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○本校は、「キャリアサポーター」と「熊本しごとコーディネーター」の兼務校である。特にキャリアサポーターと熊本県ジョブカフェブランチャとタイアップし夏休みに集中して面接指導ができた。 ○3・2年次に対し、事業所との各種事業のタイアップ時に離職防止についても講話。 ○3年次に対し、2名の卒業生の講話を実施。
	上級学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○アドミッションポリシー及び生徒の研究テーマ調査 ○保護者の進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスへの参加 ○上級学校訪問等の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教務部キャリア教育係と常に連携し総合学科の最大の特徴である「キャリア教育」を推進。 ○大学の就職課（熊本学園大学）に目標を持った進学について講話、キャリアガイダンス（2月23日実施予定）についても進学の心構えを中心としたガイダンス（34校参加）を設定。 ○上級学校訪問については1回実施したが、マン

						ネリ化しており工夫が必要。公務員や民間企業就職も対応できるよう、総務部と育友会・進路指導部で内容を検討。
		基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○教務部との連携（目標を設定した効率的な学習） ○図書部との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジタイムの充実 ○進路指導部から、全校集会等において読書の意義等について説明 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○8：30には教室で着席し読書、15：50のチャレンジタイムは定着しつつある。しかし、まだ生徒の伸長を期するために内容の充実を図る必要も有り、現在、職員朝会とその後の年次打ち合せの時間を放課後変更について試行中。
生徒指導	生活指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導の徹底 ○特別指導生徒数、前年度（17人）比50%減 ○5S活動の推進 ○マナーの向上 ○盗難ゼロの学校 ○無断アルバイトの根絶 ○2重ロック率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の共通理解と生徒・保護者への周知徹底 ○年3回の生徒指導週間の実施 ○年7回の容儀検査の実施 ○段階的指導の推進 ○教育相談室との連携 ○登校指導（あいさつ、容儀、時間厳守）及び巡回指導 ○全校集会での啓発、担任指導の充実 ○保護者への連絡・啓発 ○交通委員会（生徒、職員）による啓発と点検及び事後指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導については、服装面の改善はできているが、頭髪・眉毛の指導が多い。継続的に生活指導票の活用を徹底していく。 ○1月31日現在で特別指導生徒人数は16人で目標の50%減とはならなかったが、特別指導を受けたことで生活の改善、学校に対する意欲が高まり、効果が表れる指導になっている。 ○無断アルバイトは3人、アルバイト申請生徒は23人であった。（昨年度5人、27人） ○自転車の二重ロックについては、前期は指導の徹底ができておらず施錠率が低下した。
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが、交通安全を意識した行動を実践して生徒が第一当事者の事故ゼロを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全講話、通学方法別集会 ○生徒が主体となった単車通学生への実技講習及び安全指導 ○自転車通学生への安全指導 ○交通関係LHRの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車事故は昨年度に比べると減少している事故後は、冷静に落ち着いて対処している生徒が増えている。 ○イヤホン着用・スマホ使用などの危険運転については注意喚起を促しているが、さらなる指導の徹底が必要である。
		自主性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の活性化 ○主権者教育の推進 ○さまざまな活動への意欲的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒総会の充実 ○18歳選挙権に関する講演会の実施 ○生徒指導部からの掲示板設置 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○2年目の生徒総会も充実した意見があり、翔陽祭等に反映されるなど充実したものであった。 ○主権者教育として、大津町役場と連携を図り模擬投票を生かした取組ができた。

	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震における地域災害ボランティアへの参加 ○一人一回ボランティア参加 ○グローバルな視点と能力を持つ人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集 ○台湾修学旅行で現地高校生との交流会 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タイムリーな活動紹介により、ボランティア活動を活発に行うことができた。ボランティア時のマナーやその場に応じた取組への連携を更に深めたい。
	部活動の推進	心身の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動見学の実施等により、加入率80% ○キャリア教育との連携 ○部活動実績のHPでの紹介 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動加入率は83%であった。 ○馬術部や拳法部など、地域との連携を図りながらの取組を行った。 ○HPでの部活動紹介については、普段の活動の充実によって紹介の幅も広がった。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにある不条理な差別に目を向け、人権問題についての正しい理解と認識を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な職員研修の実施 ○校外研修への参加 ○生徒人権集会、人権教育LHR、人権教育講演会の実施 ○相談室だより発行による啓発 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○解放保護者会との交流学习会で、自らを語り、自己の解放に繋げ、学び合うことができた。 ○生徒人権集会で、県人権子ども集会の実行委員を務めた生徒の活動報告を行い、全校生徒で人権意識の高揚を図ることができた。 ○ハンセン病差別・水俣病差別の実態について、語り部から学び、自らの課題として受け止めることができた。
	教育相談	教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○個別の教育支援計画・指導計画の策定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週木曜1時間目保健室との情報交換をした。必要に応じて年次主任も参加した。 ○「心と体の振り返りシート」を3回実施し、その結果を見て、スクールカウンセラーによる面談を行った。継続的な面談は、生徒の心の安定に繋がった。 ○学校が把握している発達障がいのある生徒個別の教育支援計画・指導計画を策定して、一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援をした。
	命を大切に する心を育 む指導	自他を愛する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○悩み相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にする観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育を通して、社会貢献の意義を学び、また、ボランティア活動で自他を尊重し、思いやる心を培うことができた。 ○課題として、全ての領域・分野で継続した取り組みが必要である。

いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等対策へ向けた組織体制の確立 ○重大事態対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめの未然防止と早期発見 ○SNS被害防止への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○年8回、いじめ防止等対策委員会の開催 ○年2回職員研修の実施 ○保護者集会で啓発 ○家庭訪問及び定期的な個人面談週間の実施 ○いじめ実態把握調査の実施(6月、11月にアンケート実施) ○情報の共有化 ○スクールカウンセラーによる教育相談の活性化 ○スクールサポーターからの指導助言 ○生徒会による啓発活動(前・後期) ○SNS被害防止のための講演会や全校集会での啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等対策委員会については計画に実施することができた。委員会でいじめを認知したうち経過観察を要する生徒への対応、保護者との連携については迅速に対応することができた。職員研修については、全職員が十分に把握できる時間を確保することができなかった。 ○保護者への啓発活動については、翔陽安全安心メールや配付プリントで伝えることができた。 ○スクールサポーターやスクールカウンセラー、教育相談担当、養護教諭、担任、年次との生徒の情報共有等の連携を図ることができた。 ○いじめにおける指導の在り方を早急に検討する必要性を感じた。
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の充実 ○健康教育の充実 ○健康診断後の受診率向上を目指す。 ○よりよい生活習慣の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の結果を基に教育相談等と連携し、対応について話し合う(週1回実施。確実な記録) ○性教育及び薬物乱用防止講演会の実施 ○生徒・保護者への情報の共有化と個別面談の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月、健康観察集計票を作成し、担任団に配付し情報の共有を行った。とくに遅刻・欠席の多い生徒に対しては保護者、スクールカウンセラーと連携し、早期対応を行った。 ○健康診断の事後指導を徹底させたが、受療率の伸びは見られなかった。健康意識を高める取組や保護者との情報共有をさらに進めたい。 ○生徒保健委員会は、文化祭での発表や「保健だより」の発行など行い、健康についての情報を発信を意欲的に行った。
教育環境整備	安全管理	救急救命職員研修の充実	○救急救命の実技講習計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時のフローチャートに沿ってシミュレーションを実施 ○エピペンについて職員へ周知 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理体制やAED設置場所、エピペンについて職員への周知徹底を行った。 ○全職員に対して救急蘇生法研修会を実施し、一次救命措置に関する知識と技能の習得を図った。
		施設設備の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検の月1回の確実な実施 ○危険箇所への確実な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○点検結果をまとめ、回覧し、必要に応じ全職員へ周知する ○生徒指導部・保健部と事務部とが連携して対応する 	B	○月1回の安全点検を行ったが、回収率が90%に留まった。100%を目指し、危険箇所の改善を事務部と連携して行いたい。

		ハザードマップの作成	○美化委員会活動で確認	○校内危険箇所をマップ化して報告	B	○安全点検に危険箇所の把握・改善は徹底して行ったが、マップ作成はできていない。
	学校版環境ISOの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	○5S活動の充実 ○ゴミの減量化 プラスチック完全分別による可燃ゴミ重量昨年比10%減少	○ゴミ分別の徹底 ○校内美化コンクールの実施 ○「美化だより」発行 ○生徒美化委員会活動の活性化 ○掲示物等の活用 ○ゴミ持ち帰り活動	A	○リサイクル分別については、これまでの取組により分別に対する効果と意識高揚に繋がっているため、今年度は分別を簡易化して更に充実させた。 ○可燃ゴミ重量は昨年度と比べ約5%減少した。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	学校行事を通して連携	学校行事等の開放と交流	○育友会との連携	○一人一役活動 (翔陽祭、長距離走大会、登校指導、校外補導等)	B	○バザーや豚汁会は生徒・保護者に好評で、参加保護者の負担は大きいですが、役割分担を工夫し、成功裡に終わることができた。 ○一人一役活動となっているが、一部の保護者に負担がかかり、平等さを欠く。保護者の意識を高める工夫が必要である。
			○同窓会との連携	○学校支援、登校指導、後輩への激励	B	○県外の部活動大会や海外派遣プログラムの生徒に対して助成金をいただいた。進学・就職課外の生徒に対して、夏季休暇等に役員が激励。
			○地域住民との連携	○翔陽祭での物品販売 ○親子乗馬教室 ○地域花壇の管理	A	○多くの物品が保護者から持ち寄られ、当日の午前中に完売するなど好評である。 ○大津町役場との連携で夏休みに、また美咲野小学校との連携で11月に実施し、参加者多数で好評であった。 ○大津南小学校の熊本地震で壊れた花壇を整備し、生徒・職員に喜ばれた。
		○近隣の小学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習	A	○室小学校との交流学习で、学習ボランティアや野菜の栽培・収穫を前年に続き行い、生徒・児童の交流がさらに深まった。 ○大津支援学校との共同学習では、プランターカバーを作成した。	
保護者との連携	学校理解の推進	○保護者会等への出席率向上 ○保護者への連絡の徹底 ○保護者との情報共有	○保護者のニーズと学校の思いを考慮し、日程や内容の充実を図る ○学校安心メールの活用 ○PTA会報の充実	B	○総会の出席率は40%と低迷した。次年度は、著名人の講演を入れるなどして改善したい。 ○保護者への周知徹底を図るために、タイムリーに利用できている。	

					○年2回から3回の発行となり、よりタイムリーな記事となり、また紙面が白黒からカラーになり、より見やすくなった。
地域との連携	防災体制の充実	○防災型コミュニティ・スクールの発足 ○大津町と避難所等に関する協定締結	○防災マニュアルの作成 ○地域住民との協力体制確認 ○協定締結と避難所としての環境整備 ○防災教育の実施	B	○室北区防災訓練を本校で実施するなど、地域と連携していく環境が整った。 ○職員の意識向上を図るために更なる啓発活動が必要である ○防災マニュアル作成や協定締結については継続中である

4 学校関係者評価

学校関係者（本校では教育懇話会委員）の方々に、地域の行政・教育や企業の立場から、「学校運営」「学力向上」「保護者・住民との連携」などについて多くの示唆に富む意見をいただいた。介護職や保育士が不足しているという地域の現状から、新たな学科編成を期待する声をいただいたり、「家庭学習の定着が不十分であるという課題が残された。今後ともPDCAサイクルを活かし、成果につなげてほしい。」などの提言をいただいた。総じて、地域と連携したキャリア教育の取組等に対して高い評価をいただくとともに、地域に根差した特色ある学校づくりに対して理解を示していただいた。今後も引き続き、積極的な情報発信等を通じて、地域に信頼される学校づくりに取り組んでいくことを確認した。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : グローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指して、キャリア教育に対する組織的な取組を実践することができた。
- (2) 重点目標 : 総合学科の特性を生かし教育活動の工夫改善に努め、規範意識の向上やキャリア教育、人権尊重の精神の育成などに取り組むことができた。
- (3) 自己評価総括表 : 地域に根差したキャリア教育の実践という本校のアイデンティティに加え、グローバル人材の育成という新たな教育目標を設けて海外への修学旅行を実施するなど、更に飛躍を目指した年度であった。結果的には、高校入試において志願者が微減したものの、引き続き地域から高い支持を得るなど、地域に信頼される学校としての地位を築きつつある。また、全系列でデュアルシステムを実施したり、初めて系列ごとに集会を行うなど、組織的にキャリア教育を進めていく態勢を整えることができた。現状維持に留まることなく、常に新たな取組を積極的に導入するなどして、学校の活性化を図ることができた。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 総合学科の特性を生かし、地域と連携したキャリア教育の更なる充実を図る。
- (2) グローバルな視点と能力を持つ人材の育成に積極的に取り組んでいく。
- (3) 家庭学習の習慣化を基盤とした学力向上の具体策を策定し、引き続き、生徒の進路保障の実現を目指す。
- (4) 災害に対応できる防災型コミュニティ・スクールづくりを行い、地域との連携を深める。
- (5) 業務の効率化と教職員の負担感軽減を図るために学校改革の視点を入れる。